



株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム (研修品目 1: 施設イチゴ)

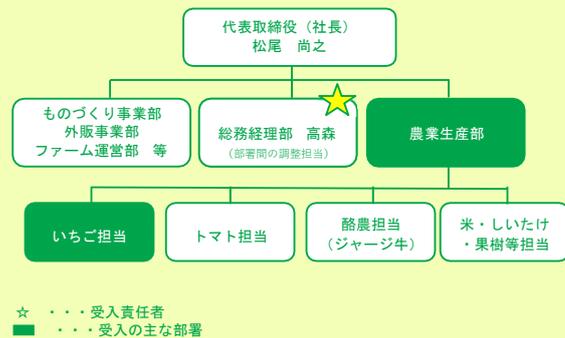
法人名	株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム
代表者名	代表取締役社長 松尾 尚之 (研修責任者: 総務部 高森)
主な経営作物	米、いちご、トマト、酪農(ジャージー牛)、しいたけ・果樹など
その他事業	加工事業・販売事業・観光農園・飲食事業 等
従業員数	正社員 88名 パートアルバイト 284名
関連会社	有限会社農業法人モクモク、株式会社伊賀の里 など
売上	2,700,000,000円

6次産業化	多様な生産品目	直接販売	加工所有
観光農園	組織・企業的	先進事例	地域 コミュニティ

農業や酪農である「第1次産業」から、ハムや地ビール、パン、とうふづくりなどの加工を手掛ける「第2次産業」、そしてそれらの製品を直営店舗や、直営レストランで販売を行う「第3次産業」までのすべて自分たちで行う新しい産業のカタチ、『第6次産業』を展開しています。

当法人における人材育成目標

指導体系図



3年後の到達目標

- ・ 美味しいものづくりを基盤に、「付加価値を高める」農業ビジネスを考えられる人材

法人で求める基礎的な素質

【求める人物像】

- ・ 自身のやりたいこと(方向性・作物・業務内容等)が明確であること

【向いていない人物像】

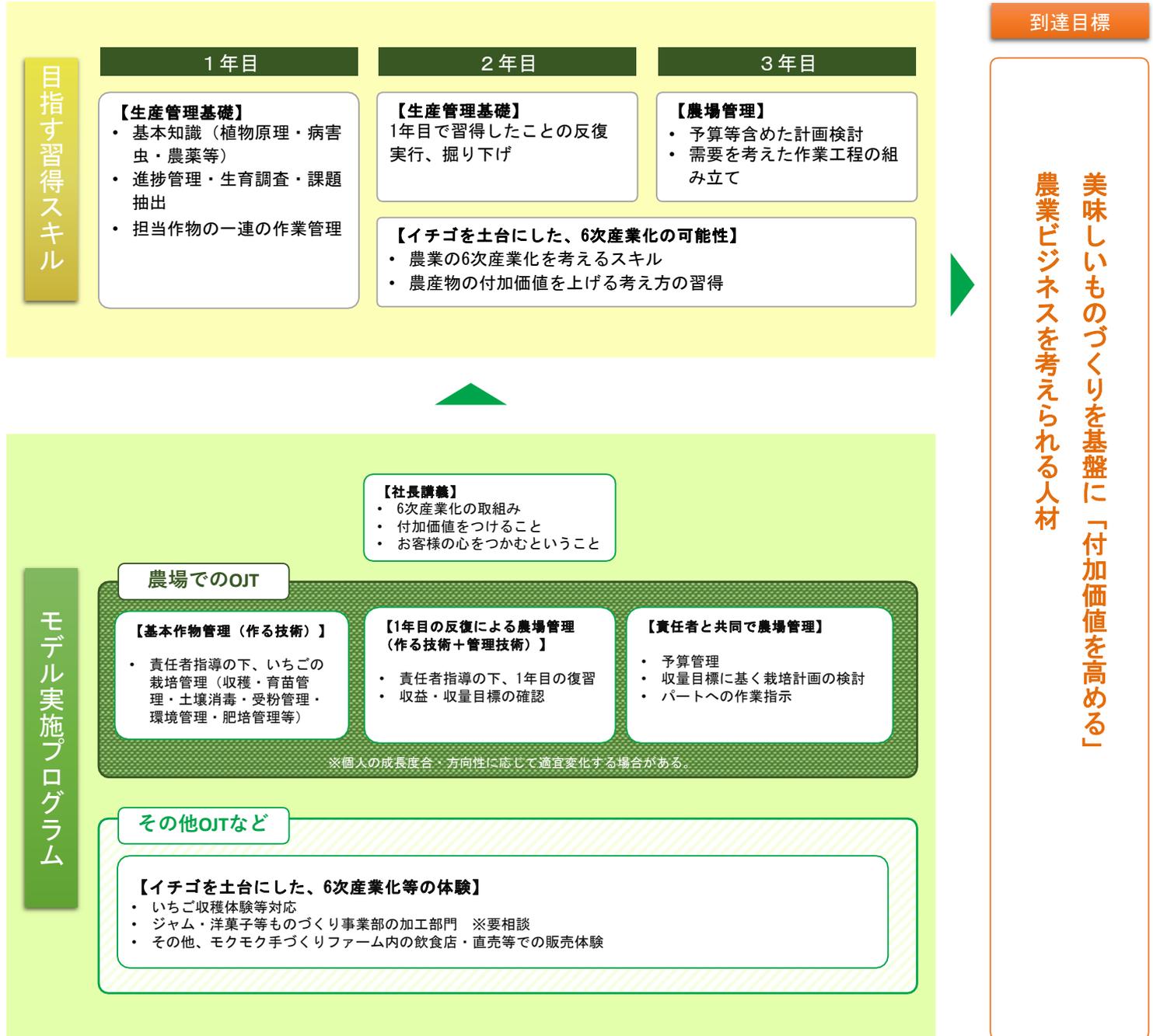
- ・ 農業に夢を求めすぎている人(現実逃避思考)、やりたいことが明確でなくモクモクでの業務経験に受身な人(機会が与えられると思っている人)

経営者・経営陣としての考え

モクモク手づくりファームは、農業生産をするのみではなく、加工・販売までを農業としてとらえること付加価値を高めて売ることを重要視しており、現在では、基盤となる直営農場と農産加工の各工場の運営のほか、年間50万人の来園者を誇るファクトリーファーム(農業公園)の運営、会員制の農産物の通信販売なども行っています。モクモクの原点は『農業』であり、現在行っているすべての業務がモクモクでは『農業』です。野菜やお米、牛乳などの原料の生産から、製品への加工、そしてそれらを自ら直接生活者へ提供することで6次産業化の実践を行い、「食」と「農」を通じて「知る」「考える」輪をもっともっと広げるために挑戦を続けています。インターンシッププログラムでは、自社直営農場での業務を基盤に、こうした6次産業化として実践している加工所・物販・レストランでの業務体験を通じて「付加価値を高める」農業ビジネスの構築を考え、実践できる人材になってほしいと考えます。

インターンシッププログラム フロー

コース特徴	指導体制	継続雇用の有無
農業生産（1次産業）を基盤に、2次産業（加工製造）・3次産業（販売サービス）が会社内で経験できる ※イチゴは全11棟ハウスがあり、2棟が育苗ハウス、9棟で栽培・体験受入等を実施している。	窓口担当者：総務部 高森 農業技術習得：各担当作物責任者	有 ※ただし、本人の適正・面談等による



法人における研修要素例

生産に関わる項目

項目	実施時期
植物生理の理解	1年次～（実践）
農業機械技術	1年次～（実践）
土壌消毒	1年次～（実践）
病害虫対策理解	1年次～（実践）
担当作物の一連の作業管理	1年次～（実践）
収穫・収量管理	1年次～（実践）
雇用管理（作業者シフト管理・パートへの作業共有）	2年次～（実践）
予算管理	2年次～（実践）
栽培・年間事業計画検討	3年次～（実践）

その他項目

項目	実施時期
いちご収穫体験対応	2年次～ ※要面談
いちご出荷調整（パッキング）	2年次～ ※要面談
ジャム等の加工研修（体験）	2年次～ ※要面談
ファーム内レストラン・物販等の研修（体験）	2年次～ ※要面談
仕入れ部署での食材調達等の研修	※希望者
稲作の地域農業者連携・コミュニティ作りに関する研修	※希望者

その他備考

※本人の意志・会社の意向により内容は変更されることがある

研修目標到達の検証方法

- ・ 週1回農業生産部でのミーティングにて
- ※別途、農の匠事業の相談員との定期面談等

（補足）法人における年間・日々の営農スケジュールイメージ

年間栽培スケジュール・イチゴに関わる部署スケジュール/イベント



その他定期的な業務/不定期なスケジュール

定例業務等	不定期業務
<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1回農業生産部でのミーティング ・ 毎年12月-1月で次年度の事業計画を作成 	



株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム (研修品目 3: 酪農)

法人名	株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム
代表者名	代表取締役社長 松尾 尚之 (研修責任者: 総務部 高森)
主な経営作物	米、いちご、トマト、酪農(ジャージー牛)、しいたけ・果樹など
その他事業	加工事業・販売事業・観光農園・飲食事業 等
従業員数	正社員 88名 パートアルバイト 284名
関連会社	有限会社農業法人モクモク、株式会社伊賀の里 など
売上	2,700,000,000円

6次産業化

多様な生産品目

直接販売

加工所有

観光農園

組織・企業的

先進事例

地域
コミュニティ

農業や酪農である「第1次産業」から、ハムや地ビール、パン、とうふづくりなどの加工を手掛ける「第2次産業」、そしてそれらの製品を直営店舗や、直営レストランで販売を行う「第3次産業」までのすべて自分たちで行う新しい産業のカタチ、『第6次産業』を展開しています。

当法人における人材育成目標

指導体系図



☆ …… 受入責任者
■ …… 受入の主な部署

3年後の到達目標

- ・ 美味しいものづくりを基盤に、「付加価値を高める」農業ビジネスを考えられる人材

法人で求める基礎的な素質

【求める人物像】

- ・ 自身のやりたいこと(方向性・作物・業務内容等)が明確であること

【向いていない人物像】

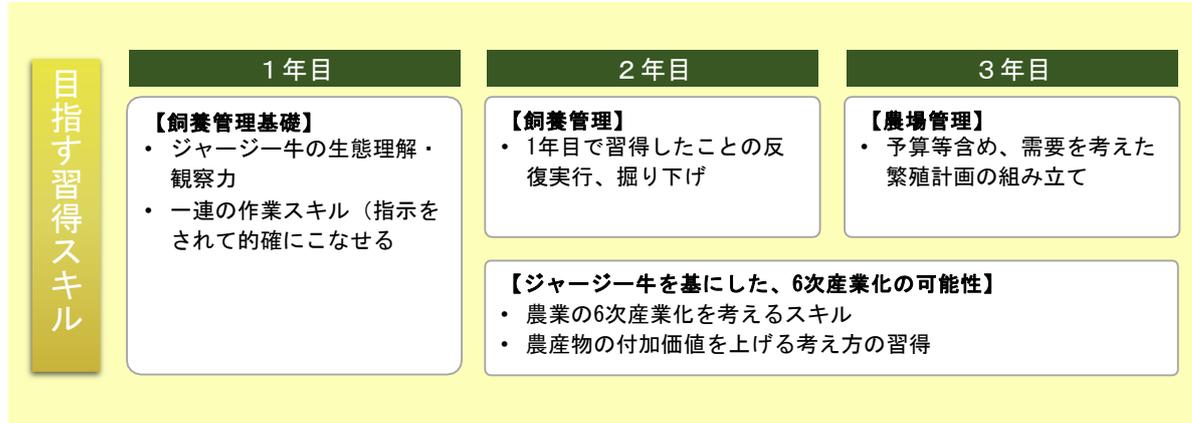
- ・ 農業に夢を求めすぎている人(現実逃避思考)、やりたいことが明確でなくモクモクでの業務経験に受身な人(機会が与えられると思っている人)

経営者・経営陣としての考え

モクモク手づくりファームは、農業生産をするのみではなく、加工・販売までを農業としてとらえること付加価値を高めて売ることを重要視しており、現在では、基盤となる直営農場と農産加工の各工場の運営のほか、年間50万人の来園者を誇るファクトリーファーム(農業公園)の運営、会員制の農産物の通信販売なども行っています。モクモクの原点は『農業』であり、現在行っているすべての業務がモクモクでは『農業』です。野菜やお米、牛乳などの原料の生産から、製品への加工、そしてそれらを自ら直接生活者へ提供することで6次産業化の実践を行い、「食」と「農」を通じて「知る」「考える」輪をもっともっと広げるために挑戦を続けています。インターンシッププログラムでは、自社直営農場での業務を基盤に、こうした6次産業化として実践している加工所・物販・レストランでの業務体験を通じて「付加価値を高める」農業ビジネスの構築を考え、実践できる人材になってほしいと考えます。

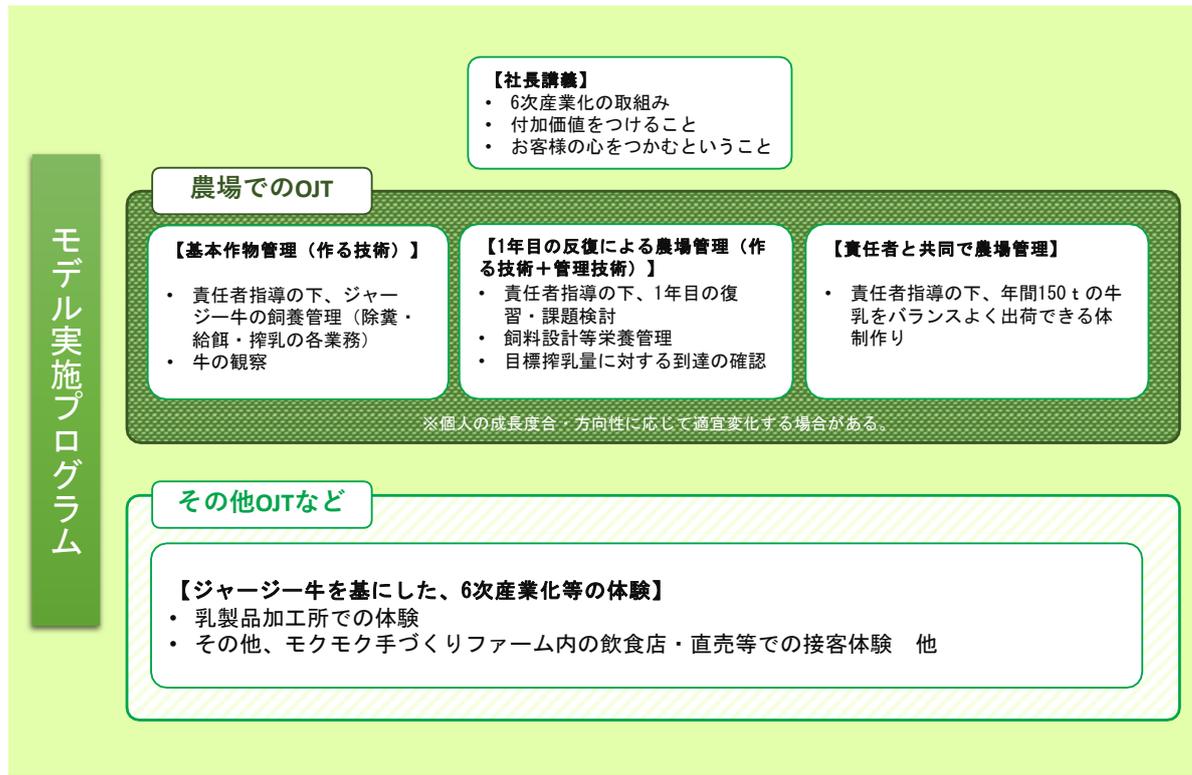
インターンシッププログラム フロー

コース特徴	指導体制	継続雇用の有無
農業生産（1次産業）を基盤に、2次産業（加工製造）・3次産業（販売サービス）が会社内で経験できる ※フリーバーン牛舎で園内・通販で供給される牛乳の生産を行っている	窓口担当者：総務部 高森 農業技術習得：各担当作物責任者	有 ※ただし、本人の適正・面談等による



到達目標

美味しいものづくりを基盤に「付加価値を高める」
 農業ビジネスを考えられる人材



法人における研修要素例

生産に関わる項目

項目	実施時期
除糞・清掃	1年次～（実践）
堆肥化技術習得	1年次～（実践）
給餌作業	1年次～（実践）
搾乳	1年次～（実践）
飼料設計	2年次～（実践）
搾乳量/外部環境等のデータ等の管理	2年次～（実践）
人工授精	3年次～（実践）
予算管理	3年次～（実践）
牛乳の出荷管理	3年次～（実践）
繁殖に関する計画予測	3年次～（実践）

※実施時期は習得度合いによる

その他項目

項目	実施時期
牛乳・乳製品加工（ものづくり事業部）	2年次～ ※要面談
ファーム内でのソフトクリーム加工の製造・販売等	2年次～ ※要面談
堆肥出荷・販売	随時
仕入れ部署での食材調達等の研修	※希望者
稲作の地域農業者連携・コミュニティ作りに関する研修	※希望者

その他備考

※本人の意志・会社の意向により内容は変更されることがある

研修目標到達の検証方法

- ・ 週1回農業生産部でのミーティングにて
- ※別途、農の匠事業の相談員との定期面談等

（補足）法人における年間・日々の営農スケジュールイメージ

年間スケジュール・ジャージー牛に関わる部署スケジュール/イベント

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ジャージー牛作業管理	← 除糞・清掃作業 →											
	← 給餌作業 →											
	← 搾乳 →											
	← 繁殖（牛は周年発情期のため、個体毎に受精・妊娠・出産時期が異なる） →											
その他事業	← 牛乳・乳製品加工（別部署） →											
	← 野菜塾市場（園内直売所） →											

その他定期的な業務/不定期なスケジュール

定例業務等	不定期業務
<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1回農業生産部でのミーティング ・ 毎年12月-1月で次年度の事業計画を作成 	